



地デジカ情報号



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 228号 2011.1.5 発行 社会政策研究所

=====

先に決定した総務省の方針に従わず、民放各局は、移行期間を設けず、アナログ波の止まる7月24日正午まで番組を放送する方針に。【kobi】

### 地デジ化、民放アナログは7月24日正午まで

読売新聞 2011年1月3日

今年7月24日に地上波テレビがデジタル放送に完全移行することに伴い、アナログ波による通常番組の放送終了時期を検討していた民放各局は、移行期間を設けず、アナログ波の止まる同日正午まで番組を放送する方針を固めた。

地デジ完全移行後のアナログ対応テレビは「砂嵐」のような画面しか映らないため、この画面のイメージを1月中にも告知番組で繰り返し流し始め、混乱を防ぐ。

現在、テレビ局はアナログ用とデジタル用の放送を流している。総務省の検討委員会は昨年6月、アナログ放送の通常番組を今年6月末で終了し、その後は、地デジ化を伝える「お知らせ文」を画面に表示するなど3週間余りの移行期間を設ける方針を決めた。これに対し、日本民間放送連盟（民放連）の広瀬道貞会長が反発していた。

### 共同住宅の地デジ対応、助成金を再々募集

読売新聞 2011年1月4日

総務省は4日、マンションやアパートなどの共同住宅に対し、地上デジタル放送（地デジ）への対応を促すため、国が費用を支援する助成金制度の再々募集を5日から始めると発表した。

共同住宅のアンテナや配線の交換など地デジ対応に必要な費用のうち、1世帯あたり3万5000円を超える部分の経費について最大で全体の半額まで助成する。

総務省は昨年4～8月と10～12月の2度にわたり募集を行ったが、申請は約3500件と目標の3分の2にとどまったため、3度目の募集を行う。

全国の共同住宅約214万施設のうち、対応済みは91.1%（昨年9月末時点）で、約19万施設（推計約130万世帯）が未対応とみられる。

特に、東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県の対応が遅れており、未対応が約13万施設と全体の7割を占める。このため総務省もこれら都県の地デジ対応への働きかけを強化する。

### 地デジ対応テレビ、盗難相次ぐ 姫路の公民館

神戸新聞 2010年12月23日

来年7月の地上デジタル放送（地デジ）完全移行を前に、兵庫県内で対応テレビの盗難が続いている。今月に入り姫路市内で4件の被害が相次いだほか、朝来市や加東市などで

も盗まれた。地デジ対応テレビは大型が主流。被害は夜間の利用者が少なく人目に付きにくい公民館に集中しており、姫路市は急きょテレビを鎖で固定するなど、対策を始めた。

姫路市内では15日夜から16日朝にかけ、3公民館で42型1台と32型2台が被害に遭った。22日未明も、勝原市民センター（同市勝原区丁）の警報が作動し、職員が駆け付けたところ1階ロビーに置いてあった32型がなくなっていた。

いずれも給湯室の窓ガラスを割って侵入したとみられている。薄くなったとはいえ、大型テレビは重さ30キロ近い。防犯装置をかいぐり、素早く盗み出す手口から複数犯の可能性もある。

被害総額は約62万円。姫路市は、夜間は施錠できる場所での保管や、チェーンによる固定などの対策を各館に指示した。被害に遭った施設の関係者は「テレビを楽しみにしている利用者が多いのに迷惑だ」と憤慨している。

このほか、兵庫県警も10月以降、朝来市や加東市の集会所などでの被害を把握している。

リサイクル品の買い取り業者によると、12月からの家電エコポイント制度の縮小に伴う駆け込み需要の反動で、中古品買い取り価格は低下。地デジ切り替え直前の高騰を狙い、今後、ネット市場などに盗品が流出する可能性もあるという。

## 地デジがやってきた 現場の周辺<上> メーク、美術の苦闘

東京新聞 2011年1月4日

ブラシでファンデーションを薄く載せるヘアメークアーティストの岡元美也子さん＝東京・西五反田で

今年七月二十四日、テレビ放送がアナログからデジタルへ完全移行する。地上デジタル放送（地デジ）によって、高画質、データ放送などを売りにした「地デジ時代」が本格的にやってくる。そこで、地デジの現場周辺をあらためて取材し、テレビ界の変化を探るとともに、「アナログ派」にもその心を聞き、さらには将来のテレビ像にも迫ってみたい。

「あの人、老けたね」「あ、あんなにシワがある」なんて、テレビを見ながら話す機会が増えた。デジタル放送はアナログ放送と比べて、高画質のハイビジョンが楽しめる。それだけに制作側は対応に苦闘する。

### ▼“自然に隠す”

「最近ごまかしがきかなくて困ってます。若い女優さんのアップから自分のアップに画面が切り替わると、がくぜん。本当に嫌になる」。ベテラン女優の音無美紀子は嘆く。

「ハイビジョンは肉眼では見えない、きめの細かさや毛穴など、肌の質感まで映す」と話す、資生堂のヘアメークアーティスト・岡元美也子さん。自社のテレビCMで女優らのメークを担当してきた。

ハイビジョンは約二百万画素。約三十五万画素のアナログ放送（標準画質）と比べ、より鮮明に映る。

かといって厚塗りをすれば化粧をしない首との差が際立つ。そこで編み出されたのが「気になる部分を隠しつつ、素肌感を生かす」という高難度のナチュラルメーク。

鍵となったアイテムがファンデーション。色の主流は健康的に見えると多用された赤み系から、素肌に近いベージュ系に変わった。メーク法も様変わり。「スポンジや指を使って覆い隠すように塗る方法から、ブラシで薄く丁寧に、こまめに重ねづけするようになった」

メークと連動して重要性が増したのが、照明や撮影だ。「間接照明を多くし、光の質をよりやわらかくするようにしている。直線的な光だと、鼻の影やほうれい線がシャープに出てしまうから」（東映京都撮影所の今西均カメラマン）



### ▼半かつら

時代劇の現場はさらに細心だ。「現代劇よりも隠すモノが山ほどある」と、「水戸黄門」(TBS)などを手掛ける撮影所でヘアメイクを担当する山下みどりさん。最も難しいのが、かつらの生え際“のりしろ”部分の「アミ」。網目を細かくしたものの、アミを隠すには昔のドーランで塗りつぶすしかなく、厚塗りになってしまうため、「アミ自体を減らしていかない」と…。前髪や生え際に俳優の地毛を生かすようにした「半かつら」が増えている。頭頂部を半月形にそった「月代(さかやき)」の場合も「あらかじめ髪をそる役者さんが多くなった」。

### ▼小道具の新聞も手作り

リアルな質感が求められるのはセットや小道具を作る美術も同じ。同撮影所では今、美術品の真贋(しんがん)をめぐる財前直見主演のサスペンスドラマ「フェイク 京都美術事件絵巻」(4日から火曜夜10時、NHK総合)を、東映とNHKが共同制作している。「京都府警三条署」のセットの窓枠にも工夫の跡が。「木枠で窓枠を製作しているので、古くさく見えないように金属製の樹脂シートを木枠に張って金属製の窓枠のように見えているようにしている。昔なら色を塗るだけでOKだったけど」と、NHK大阪放送局の美術デザイナー・西村薫さん。

撮影所の竹村寧人(やすと)・美術課長は、ハイビジョン対策の秘密道具があるという。仲間内で「べっぴんさん」と呼ぶ薄い板で、色を塗ってセットに張って質感を高めたり、柱のくぎ穴を隠したりするときなどに使う。時代劇は武家屋敷などの常設セットを作品ごとにアレンジして撮影するのが普通で、あちこちに傷やくぎ穴がある。以前は単にベニヤ板で隠すだけだったが「べっぴんさん」を思いだした。

「すべてにピントが当たる感じ。二倍の手間暇をかけるようになった気がする」。一例が新聞。アップで使われる場合でも、以前は見出しだけを作り、記事は新聞から適当に切り張りしていたが、「見出しと合わない内容だとバレたら困るので今は記事も作ってます」。

画面の縦横比がアナログの三対四からデジタルの九対十六へと横長になった影響も大きい。「(奉行所の)お白州のシーンだと、昔なら正面だけのセットで済んだけど、脇の部分も作るようになった」

時代劇のロケで映り込んだ電信柱などはコンピューターグラフィックス(CG)で簡単に消せるようになったが、役者の深い心情を表現するにはシワの一つにも妥協できない。「デジタルって言っても結局考えるのは人なんですよね」(竹村さん)。「魂」を吹き込む制作者のこだわりは不変だ。(服部聡子)

たまには太陽の子・手をつなく、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行